

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成29年 **4**月の**優しさ**通信



認知症高齢者向け口座 城南信金 財産保護と利便性両立

・城南信用金庫（東京）は、認知症の高齢者らの財産を保護しながら、介護施設に入るときなどに煩雑な手続きをしなくてもお金を引き出せる専用口座を、全国で初めて取り扱い。

（2017年3月2日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



障がい者 退所後支援に指針 本人の意思反映

福祉施設が計画作り 「地域移行」後押し 厚労省

・厚生労働省は障がい者が福祉施設を退所した後の生活の場を決める時などに、本人の意思決定を事業者がどう支えるべきかを定めたガイドライン案をまとめました。

・知的障がい者などで意思表示が難しい場合は、本人や家族なども交えた会議を開催。

・2013年4月施行の障害者総合支援法では、福祉施設などの事業者に対し障がい者の意思決定を支援していくよう定めています。

・厚労省は障がい者の生活について、施設からグループホームや自宅などに移り住む「地域移行」を重視。2020年度末までの4年間で、現在の施設入所者（約13万人）の9%以上が自宅などに住み替えることを目指しています。

（2017年3月6日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



高齢化で介護施設増 好況時、他業種に流出

・大阪の1月の介護関連の有効求人倍率は4.61倍。全職業（1.46倍）を大幅に上回っています。背景にあるのが高齢化による介護施設の増加です。

・介護業界では不況時の採用は順調ですが、好況になると人材が他業種に流出する傾向。

・政府は4月の介護報酬見直しで介護職員の処遇を改善する方針。

（2017年3月10日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



介護現場 ITで支援

認知症 職員が体験 利用者の生活記録

- ・介護現場で仮想現実（VR）機器やウェアラブル端末を使うサービスが拡大。
- ・認知症の感覚を追体験したり、患者の健康状態を効率的に管理したりします。
- ・2025年には介護士など約40万人の人材が不足との試算もあります。
- ・ヘッドギアを付け認知症患者の感覚を追体験。実際には居ない人や物が見えてしまう「幻視」の症状を再現する動画など4種類の内容を用意。
- ・施設で運動する際、利用者にセンサーを搭載した小型端末を足に装着して筋力や持久力などの身体機能を測ります。普段の生活でも腕時計型の端末を装着して就寝や食事のタイミングを記録します。タブレットの専用アプリで測定方法や最適な運動メニューを提案。
- ・有料老人ホームの利用者は年間約30万人。デイサービスの利用者は約192万人。
- ・介護職の有効求人倍率は1月時点で3.53倍で、全業界平均は1.36倍。
- ・デイサービスの事業所での作業をIT化。家族への連絡帳や自治体への申請書などを専用アプリに入力すると自動で処理。事業所あたり月120時間ののぼっていた事務作業を3分の1程度に。

（2017年3月9日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



電動車いす利用 訪日客にも許可 鉄道内で

- ・国土交通省は、訪日外国人もハンドル型電動車いすで鉄道を利用できるよう、事業者の自主ルールを見直す方針。外国人を締め出している現行ルールを廃止します。
- ・現行ルールでは、障害者総合支援法や介護保険制度に基づき、購入費支給や車いす貸与などを受けている人に対象を限定。利用の際には「鉄道施設利用証ステッカー」を示す必要があります。

（2017年3月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



高速道路を逆走 75歳以上が45% 国交省調べ

- ・昨年までの6年間に高速道路で起きた逆走トラブル計1283件のうち、45%にあたる573件が75歳以上のドライバー。65～74歳が22%、30～64歳が25%、30歳未満が8%。

（2017年3月24日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 3
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



職員が高齢者虐待、最多 介護施設、36%増の408件

- ・厚生労働省は、2015年度に介護施設で発覚した職員による高齢者への虐待は408件だったと発表。前年度比で36.0%増え、過去最多を更新。
- ・家族や親族などによる虐待は1.5%増の15,976件で3年連続の増加。表面化するケースが増えています。
- ・介護職員による虐待の被害者は778人で1人が亡くなりました。職員による虐待で死亡したのは調査を開始して以来初めて。要介護度3以上が622人と79.9%。
- ・虐待の種類別では、殴る蹴るなどの「身体的虐待」が最も多く478人(61.4%)。暴言を吐くなどの「心理的虐待」は215人(27.6%)、おむつなどを替えないなどの「介護放棄」は100人(12.9%)。
- ・虐待の要因は、認知症への理解不足といった「教育・知識・介護技術などに関する問題」が246件(65.6%)と最多。「職員のストレスや感情コントロールの問題」は101件(26.9%)。
- ・家族や親族などから虐待を受けた被害者は16,423人で、20人が亡くなりました。
- ・虐待の要因は、「介護疲れ・介護ストレス」が1320件(25.0%)、「虐待者の障害・疾病」が1217件(23.1%)、「被虐待者の認知症の症状」が852件(16.1%)。

(2017年3月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



障害への配慮 手探り 差別解消法 施行1年

筆談ボードやスロープ設置 企業・自治体対応半ば

- ・国や自治体、企業などに、障がい者の要望に対する「合理的配慮」を求めた差別解消法。
- ・差別解消法は昨年4月に導入され、国や自治体、企業などによる障害を理由にした差別を禁じています。
- ・過大な負担にならない範囲で障がい者に配慮することを「合理的配慮」と位置付けたうえで、こうした配慮を国や自治体に義務付けたほか、企業にも努力義務として課しました。

(2017年3月25日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具－移動関連用具

その1 車いす8 車いすの種類 普通型電動車いす

- ・車体には四つの車輪がついていて、普通は二つが駆動輪、他の二つが自在輪（キャスト）です。前輪が駆動するものを前輪駆動方式、後輪が駆動するものを後輪駆動方式と呼んでいます。現在は後輪駆動方式のものがほとんどです。
 - ・操縦は、ジョリスティックレバーを手で操作する方法が最も一般的で、このレバーを進みたい方向に倒すことで方向をコントロールします。
 - ・速度調整用スイッチ（低速2 km/h、中速4 km/h、高速6 km/h）による変則機能がついていて、ジョリスティックレバーの倒し角度で速度を制御します。
 - ・重量はバッテリーを含めると60 kg前後なので、身近に適切な介助者がいないと格納、清掃、整備、充電などの作業は困難です。
 - ・道路までの適当なスロープや風雨を避ける保管場所も必要です。
 - ・導入にあたってのチェックポイントは、道路幅や回転スペース（トイレ、台所など）や段差など、普通型電動車いすが移動できる生活環境かのチェックや、バッテリーの充電などの普通型電動車いすの整備や管理、移乗などを手助けしてくれる介助者がいるかどうかです。
 - ・安全に操作できるかという操作方法を理解するだけの知的能力や、環境が急変したときの状況把握や判断力が備わっているかも重要です。
- 障害の程度は、手足に重度の障がいがあり、自走用標準型車いすの操作が困難または不能の人や身体障がい者手帳1～2級の人。
- ・年齢については特に定めはなく、6歳以上であれば可能です。
 - ・普通型電動車いすが処方される疾患は、頸髄損傷（第五頸髄レベル以上）、進行性筋委縮症、重度関節リウマチ、脳性麻痺、重度ポリオ、先天性四肢奇形、欠損および心肺機能不全を伴う内部障害などです。

（参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより）

